

平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

保育実習の効果的な実施方法に関する調査研究

一般社団法人 全国保育士養成協議会

<事業目的>

指定保育士養成施設における保育実習については、修得した知識・技能を基礎とし、それらを総合的に実践することが求められている。卒業後に保育現場で定着を図る観点等から、効果的な保育実習方法を検討することが求められている。効果的な実習の成果は、保育士養成施設の教育の向上に寄与するとともに、保育現場での保育の質向上にも反映できるものである。

このため保育実習に関する有効的な実施方法・内容や好事例を収集し、実習の効果的な実施方法に関する考察、提言を行い、保育士養成施設における実習指導の質の向上を図ることを目的とし、次の3つの調査研究を実施した。

<事業概要>

1. 指定保育士養成施設の在学学生を対象とした質問紙調査（学生調査）

調査を通じ、指定保育士養成施設の在学学生を対象に、実習における学び全般、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲそれぞれにおける実習前と実習後の学生の意識の変化や学びの深まりの過程、指導実習、学生自身の成長等に関し、知見を得た。

2. 保育実習の好事例調査および事例集作成（好事例調査）

保育実習に係る（教育課程、指導・支援体制、事前・事後指導、指導方法・マニュアル、評価、訪問指導、実習先との連携等）に関する事例およびヒアリングによる調査を行い、先駆的、モデル的な取組みの成果や課題を明らかにした。

3. 保育実習の標準的な実施方法の検討（標準的な実施方法調査）

実習に係る取組み（教育課程、指導・支援体制、事前・事後指導、指導方法・マニュアル、評価、訪問指導、実習先との連携等）に関する事項についてグループインタビューを行い、特にオリエンテーションと実習計画、訪問指導のあり方、子ども理解のための工夫、保護者支援の理解、実習評価のあり方等について知見を得た。さらに、本会が2005年及び2017年に策定した「保育実習指導のミニマムスタンダード」との整合性を図り、本研究の学生への質問紙調査、好事例調査とを総合的に検討した。

<事業実施結果及び効果>

指定保育士養成施設の教員、学生並びに実習施設の指導職員に対する調査や、好事例調査を通じ、有効な知見を得ることができた。今後のよりレベルの高いモデル的な保育実習指導基準を定めるうえで参考になり、保育実習の標準的な実施方法の策定に寄与することが可能となった。

特に、養成校と実習施設の連携・協働による一体的な実習指導の方策や、保育士養成施設及び実習施設における実習指導者の要件を定めるうえでの標準を示すなど、その結果は効果的な保育実習指導の方法の改善や、教育の質の確保・向上に貢献し得ると考えられる。